

---

# ある女の子の日記

長澤雄一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある女の子の日記

### 【Nコード】

N3831F

### 【作者名】

長澤雄一

### 【あらすじ】

転校するということ。それは期待や希望だけではない。子供なりに真剣に考えた結果、別れがやってくる。その時、旅立つ少年、見送る少女は何を思うのか。少女の日記に書き綴られた想いは。体験談をふまえたお話です。A・Sさんへ捧げます。

今日は3学期の終業式。

そして、僕にとっては、入学してから5年間通った小学校と別れの日。

遠い街へと、転校するから。

淡々と式が終わり、帰りの会でみんなへ別れの言葉を告げた。クラスメートの反応は様々だったが、自分が思っていた通り、サバサバしたものだ。

帰り際に、担任の先生からA4サイズの封筒を受け取った。中身は何かと尋ねてみたら、

「家に帰ってから読んでみなさい」

とのこと。

そして、いくつかの応援の言葉をもらい、学校を後にした。

家に帰り着くと、クラスメートの数人が訪ねて来て、お別れの品と言葉をくれたのだが、僕はそれにそっけなく礼を返すだけ。

その中の一人の女の子の、少し寂しげな横顔が、僕の胸に痛みを与えていた。

- - - -

引越すことを親から告げられた時は、新しい街に住むことを楽しみにしていた。

だが、その日が近づくにつれて、不安がどんどん大きくなっていくのに気づいた。

『今いる友達とは会えなくなるんだ』

『誰も知らない街で一人ぼっち……』

気づいてしまったら止まらない。

僕は、その不安を打ち消すためにある行動を取った。

まず、担任の先生に転校することを秘密にしてもらった。

そして、仲の良い友達に喧嘩をしかけたり、クラスメイトと口を利かなくなったり。

しばらくすると、みんなは僕から距離を置くようになった。

『仲良くしなければ別れは辛い』

そんな、子供っぽい考えが、僕の頭の中にあっただからだ。

結果、終業式後のクラスメイトの反応を見ればわかる通り、僕の行動は成功した。

- - -

この街で最後に過ごす夜。

僕は、先生からもらった封筒を開けてみた。  
中には数枚の紙。

それは、誰かの日記のコピー。

うちのクラスは、全員が日記を書いて、先生と交換ノートのような  
ことをしていた。そのコピーだ。

書いたのはクラスメートの女の子。特別親しい間柄ではない。

僕にいじめられたことでも書いているのだろうか？  
まずは、一枚目に目を通す。

1ページ目は、予想通りの内容だった。

体育でグラウンドにいる時、僕に石を投げられたこと、クラスメー  
トと喧嘩していたこと。そんなことが書いてある。

ちょうど、僕がみんなとの距離を置き始めようとした時期。

彼女の日記の最後には、

『いつもの彼じゃないと感じた』

と書かれていた。そして、

『どうしたんだろう？ 何があったか、わかってあげられたらいいね』

と先生のコメントがついていた。

2枚目をめくると、彼女はこう書き綴っていた……。

『卒業式の日のこと』

この日、僕は在校生（5年生）代表として、卒業生を送る歌の指揮者をつとめる予定だったのだが、高熱で休んでいた

その日の帰りの会、先生は、彼があと数日で転校する、と言いました。

秘密にするはずだったのに、先生は話していたんだ……

私は驚きました。

そして先生は、彼がそのことで悩んでいて、みんなと距離を置くこととして、と言いました。

私は、自分が転校した時に彼と同じ思いをしたのに、それをわかってあげられなかったのが悲しくなりました。

まわりのみんなも悲しい顔になっていました。

先生が話す彼の思い出を聞いていると、私は涙が出てきて、先生も泣いているように見えました。

転校すると、とっても悲しい。けど、それに負けてはダメだと思う。

前の学校の先生は、私に

『悲しいときや辛いときは、それが顔や態度に出てしまう。でもそれじゃあダメ！』

と言っていた。

彼にも頑張ってもらいたい。きっと彼ならできる！

私をはじめてこの学校に来た時、最初に話し掛けてくれたのは彼でした。

彼にはいろんなことを教えてもらったり、怒られたりしました。

でも、嬉しくて泣いちゃった！

私は彼が好きです！

こんなに優しくしてくれた彼なら、どんなに遠く離れても大丈夫！  
会えなくなるのは寂しいけど、いつかまた会えるよ

がんばれ！ 私の大好きな友達君！

最後まで読み終えた僕は、泣いていた。涙が止まらない。

こんなにも僕のことを考えてくれる友達がいる。  
それに気づかなかったのが悔しい。

今からでも会ってあやまりたい。

笑って別れの挨拶がしたい。

でも、もう間に合わないんだ……。

僕に出来ることは。

それは、これから住む新しい街で元気に過ごすこと。  
悲しいときや辛いときも笑顔で頑張ること。  
新しい友達をたくさん作ること。

そして、彼女のことを忘れないこと。

いつか再会するときに、自信を持って彼女に会えるよう、この日記  
のことは絶対に忘れない！

僕は涙を拭い、丁寧に日記のコピーをたたんで、封筒にしまった。

部屋の窓から見える夜空を見上げ、

「ありがとう」



と小せくじぶやいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3831f/>

---

ある女の子の日記

2010年10月15日22時53分発行